



世田谷区議会議員

# 風間ゆたか NEWS



お問合せ・ご意見はこちらへ

風間ゆたか

検索

風間ゆたか事務所 〒154-0002 世田谷区下馬4-5-9-203  
TEL&FAX:03-6914-9053 e-mail:kazama@kazamayutaka.com

## 風間ゆたか 世田谷区議会議員の任期がスタート!

5月1日より新たな世田谷区議会がスタートしました。5月の臨時議会では各議員毎に委員会が決まり、風間ゆたかは常任委員会で「文教」、特別委員会で「地方分権・庁舎問題等対策」に所属することとなりました。文教委員会では最年少ながらも副委員長となり、「学校教育という専門分野でより一層貢献できる環境が整った」(本人談)と意欲的に取組みはじめたようです。



### ★風間ゆたかのプロフィール★

#### 【現在】

世田谷区議会議員：民主党・無所属連合 副政調会長  
文教委員会 副委員長  
早稲田大学大学院 非常勤講師  
NPO法人国際ボランティア学生協会 理事

#### 【略歴】

1973年 東京生まれ(教員と専業主婦の長男として)  
1995年 早稲田大学政治経済学部政治学科 卒業  
1995年 株式会社ベネッセコーポレーション 入社  
…全国420大学への営業開発を担当。  
1997年 大学生向け就職支援業の零細企業に転職  
…大学生のべ500人の就職指導を行う。  
2000年 株式会社ウィル・シード 創業期に参画  
…メンバー4人でベンチャー企業の立上げを経験。  
2004年 同社 取締役就任(学校教育事業責任者として)  
…経済産業省起業家教育促進事業の責任者として  
全国各地の小中学校にて体感型授業を実践。  
2006年 同社引退(社員数10倍、売上20倍となり)  
2007年 世田谷区議会議員 3810票を得て初当選  
※家族構成 妻(WEBマーケティング業)  
長男(2歳/保育園通園)、次男(0歳)

### 風間ゆたか5月中旬以降の活動状況

#### ○5月17日～23日：臨時議会【公務】

初議会が行われ、議長や各委員が承認されました。

#### ○5月24日：地域のNPO総会に出席【政務】

会員になっているNPOの総会に出席し進捗把握しました。

#### ○5月25日：正副委員長会【公務】

委員会運営に関する確認がなされました。

#### ○5月27日：世田谷消防団操法大会【政務】

世田谷地域の各分団毎の大会に出席しました。

#### ○5月28日：文教委員会【公務】

今年度の教育委員会の取組み事項等を確認しました。

#### ○5月31日：特別委員会【公務】

地方分権・庁舎問題等対策委員会に初出席しました。

#### ○6月1日 新人議員区内視察【公務】

区内施設など5箇所を研修として視察しました。

(左側つづき)

#### ○6月7日：現場視察【政務】

第1回会派視察は野沢の子ども園。午後は個人で学校教育イベントに参加し、新たな取組みを確認しました。

#### ○6月12日～22日：第2回定例会本会議【公務】

3日目に一般質問にて初登壇しました。(表面参照)

#### ○6月16・17日：地域イベント参加【政務】

子育てフェスタとアートフリマに参加しました。



**民主**  
PRESS MINSHU

2007年7月号  
(世田谷区版)  
民主党プレス民主編集部  
東京都千代田区永田町1-11-1  
電話03-3595-9988(代表)  
www.dpj.or.jp

号外

**風間ゆたか活動報告「一般質問 会議録」**

6月12日から始まりました世田谷区議会第2回定例会。民主  
党の新人議員は全員が10分間の一般質問を致しました。本紙  
では風間ゆたかの質問内容と行政側の答弁をご紹介します。

### ●区立小中学校の今後のあり方について

2つの観点から質問をさせていただきます。一つは民間人校長の採用について、もう一つは新しいカリキュラム導入における民間団体の活用についてです。いずれの観点も首都東京において最多の区立小中学校を有する世田谷区こそが、これからの日本をリードする人材育成を公教育の現場に行っていくべきだという考えに基づくものであります。この国はもはや安定的に経済成長し続ける時代ではなく、大企業だけでなく、成長産業としてもはやされた企業でさらさら倒産といたことが現実的に起こる時代ですから、自らの生き方は自らがデザインしていかなければなりません。そのような社会で生き抜いていくために必要な要素を、義務教育課程から育んでいく必要があると考えます。このような教育は現場の先生方だけで行うのは困難であり、その為にも民間力を活用していくべきと考えますが、まずは教育長にこのようなお考えがあるのかを是非とも伺いたいところでもあります。

そして、早速各論に入りますが、まずは民間人校長の採用についてであります。現在東京都内においては教員経験を有さない民間企業出身の校長が、杉並区と足立区においてひとりずつ登用されております。都内での義務教育段階で最初の事例となった杉並区立和田中学校ですが、若井田教育長の後輩と聞いております藤原校長は民間企業出身の経験を活かして様々な独自の取組みを行い、毎週のように全国各地から大勢の人が視察に訪れられております。特に校長自らがカリキュラム開発し授業を行う「よのなか科」は、通常の授業では触れることのない様々な分野をテーマにし、生徒に考えさせることで多大な好影響を及ぼしているのを私も何度も目の当たりにしました。また、足立区立五反野小学校は、コミュニティスクール研究指定校として、様々な学校現場の課題を解決していけるリーダーを採用すべく「教育関連の企業にてマネジメント経験のある人材」を探したそうですが、教員経験豊富なそれまでの校長が解決できなかった課題を次々と解決していったと聞いております。このような大きな成果を見込める民間人校長の採用は世田谷も積極的に取りたいと考えますがどのようにお考えでしょうか？

もうひとつ、新しいカリキュラム導入における民間団体の活用についてですが、総合学習の導入後以降、職業や経済活動関連などの実社会を学ばせる教育に関しては全国各地の教委が民間団体とタイアップし、新たなプログラムを教育現場に取り入れております。これに関しては、経済産業省が支援しているほどであり「起業家教育促進事業」や「地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト」などがあります。私も企業サイドでかなり携わってきましたが、ここ数年間で全国数十の教委が経済産業省の採択した民間団体のプログラムを取り入れており、その効果は第三者評価や有識者評価などからも実証されております。23区では15年度以降千代田区が導入しておりその影響を受けて目黒区なども独自予算で取り入れておりますが、残念ながら世田谷区では都教委を通じて2つの中学が取り入れたという状況であります。また、経済産業省支援事業以外にも品川区などは全国に先駆けて、平成14年度よりあるNPO団体が提供する米国内で大変高い評価を得てきたプログラムを全小中学校で導入し、教育関係者だけでなく、保護者からも大変な評価を得ているようです。これら教育関連の民間団体とタイアップすることのメリットは現場の先生方への負担が少なく、有効なプログラムを子ども達に提供できることにあります。文部科学省の研究指定校のように現場の先生方が膨大なレポートを作成する必要もありませんし、先生方が研修で何日も拘束されるようなこともありませんし、タイアップする団体によっては、コストがほとんどかからない場合もあります。残念ながら世田谷区内では、このような民間団体の活用が各学校ばらばらであり、区として質の担保がなされていないような状況かと思われます。保護者の立場からすると学校を選択できないわけですから、教科外で生き力を育む総合学習の質は少なくとも区として担保すべきです。できれば他区のように優良なプログラムを民間団体とタイアップして推進すべきと考えますが、教育長の見解をお聞かせ下さい。

### ●子育て環境の改善について

今回は特に保育園待機児童解消について伺います。この問題に関してはすでに何度も質問されていますが、計5つ伺い致します。①まずは中村議員が質問していたことに明確な答弁がなかった件、平成20年度までに前倒しとなった1000人増設ですが、これによって、実際に待機児童はゼロになると現段階で見込まれているのでしょうか？②予測を上回る形で子どもが増えているわけですから、更なる修正プランが必要かと思いますが、完全な待機児童ゼロ化を何年度までに実現すると目標設定しているのかお聞かせ下さい。③また、区長は東京で最も子育てしやすいまち世田谷を掲げているが、どのような指標と数値目標でこれを達成するとお考えなのでしょうか？④東京で最も子育てしやすいまちどころか、保育環境に関しては東京で二番目に子育てしにくいまちになっている事実を区長はご存知なのでしょうか？

平成18年4月1日現在の厚生労働省の発表によりますと待機児童数が東京では足立区に次いで多く、全国ランキングでも政令指定都市を除けばワースト6位という残念な状況です。昨日ことも部長が提示していた昨年度の待機児童数は世田谷独自算出のものであり、厚生労働省に報告している数字よりはるかに低い数字であることも問題ですが、0歳児に関しては、年度の途中に生まれることもあり、年度初めの待機児童数にはカウントされませんから、実際の待機児童数はもっと多いわけでありです。東京で最も子

育てやすいまちを目指すのであれば、このような年度の途中で生まれた0歳児も希望時期に合わせて預けられる環境をつくるべきです。認可園に入れず仕方なく割高で庭のない認証保育所やベビーホテルに預けている乳幼児も待機児童にカウントすべきです。他区の一例ですが北区に住む私の友人などは0歳児で年度途中に近隣の公立私立あわせて3つの保育施設を自由に選べたようでありました。そこで、⑤東京で最も子育てしやすいまちを目指すのであれば子どもを預けることを望むすべての人が待機することなく預けられる状況を目標とすべきですが、区としてこのような目標を掲げているのかお答え下さい。以上5つの質問に端的にご回答願います。

### ●駒沢大学駅付近の駐輪スペース設置について

駒沢大学駅は1日平均65000人もの乗降客がいるようですが、駐輪スペースは246の北側にわずか541台分があるだけで、常に満車という状況です。一つ渋谷区の三軒茶屋駅は平均117000人が1日に乗降し、駐輪場は5箇所で計2124台分、もうひとつ渋谷よりの池尻大橋駅は平均53000人が1日に乗降し、駐輪場は2箇所で970台分が設置されていることと比較しても、駒沢大学駅は乗降客数に対して駐輪スペースが圧倒的に少なすぎる状況ですから、放置自転車がなくなるというわけでありました。ちょうど1年前の定例会一般質問にて、下山さんが同様の質問をしております。その際の答弁では「厳しい状況であることを認識し、引き続き取り組んでまいりたいと考えてございます。」とありました。そこで質問ですが、この1年間で駒沢大学駅の駐輪スペース確保に向けて、何をどのように取り組みどのような進展があったのかをお答え下さい。

### ■行政側の答弁

#### 【教育長】

1点お答え致します。学校教育が学校の中だけで完結する時代は過ぎたと考え、世田谷区では地域と共に子どもを育てる教育を推進しているところであります。

#### 【教育改革担当部長】

区立小中学校の今後のあり方についてお答えいたします。まず、民間人校長の登用につきましてはお答え致します。校長は教育者であると共に学校を経営する経営者でもあります。校長には教育者としての深い眼差しを持った教育の専門家としての能力と、学校経営の責任者として強いリーダーシップを発揮し、学校改革・学校改善を推進する能力が求められます。民間校長を登用しました全国の例を見ますと様々な事例もあり、また課題もあると認識しております。世田谷区では教育ビジョンに基づき、平成17年度より学校経営塾を創設し、校長や副校長を対象に、区内外の第一線で活躍されている民間企業の経営者や学識経験者から、経営者としての視点や手法を学ぶ場を設け、学校経営の効率化・活性化に向けた改善の取組みを推進しております。

もう1点、民間企業のプログラムを活用し、キャリア教育の取組みが必要ではないかという質問にお答えします。小学生段階から子ども達が働く意義を理解し、将来社会人・職業人として自立していくことができる力を育むキャリア教育の取組みは大変重要であると認識しております。教育委員会では小学校からのキャリア教育のケア資料を作成し、各学校に周知すると共にすべての区立の小学校にキャリア教育担当教員を置きまして、実体験を重視したキャリア教育の充実に取り組んでいるところでございます。一例ではありますが、九品仏小学校では3年生が地域のお豆腐屋さんに行きまして実際に豆腐を作ったり、あるいは砵中学校ではすべての生徒が様々な職場体験を通して、仕事の意義を考える、こういった学習もしております。このように教育委員会としては、地域の人々が働いている場、地域の人と接する中で、子ども達が実体験を通して働くことの楽しさを実感できることが大切であると認識しております。今後も区内の工業・商業・農業等の民間事業者等のご協力を上手くいかして、キャリア教育の一層の充実を図って参りたいと考えています。

#### 【子ども部長】

保育待機児につきまして5点質問いただきました。あわせてご答弁申し上げます。保育サービス待機児の早期解消を図るため、子ども計画を前倒しし、20年4月までに受け入れ枠1000名を拡充するべく、全力を挙げて取り組んでいるところでございます。本年度におきまして認可保育園の増設などの達成に向けて全力でまいり取り組んでいるところでございます。あわせて、本年4月には区立幼稚園を用途転換し、幼保連携型の私立認定こども園を2園開設したところでございます。こうした新しい取組みも含めまして、区長が掲げます「東京で一番子育てしやすいまち」の実現に向けまして、全力で取り組みを進めて参りたいと思います。今後とも地域の実情、保育ニーズを充分に把握しながら、議員ご指摘のように今年度中に新たなサービス利用の申請をなされる方々への対応を含めまして、私立保育園の預かり保育制度、認定子ども園制の有効活用など新しい取り組みを含めながら、保育サービス待機児の早期解消に向け、全力で取り組んで参りたいと考えております。

#### 【交通政策担当部長】

駒沢大学駅の駐輪場の取組みについてお答えいたします。駒沢大学駅には541台収容の駒沢駐輪場を整備してきたところでございます。しかしながら放置自転車は400台と多く、駐輪場の整備が必要であると認識しております。区ではこの間、駅周辺の駐車場や未利用地の活用等の検討を行うとともに、既存の駐輪場の通路等を活用しまして、収容台数を150台ほど増やすなどの対応を図って参りました。駅への自転車利用者の状況を見ますと南側は2キロ離れた東深沢小学校や中学校まで、北側は弦巻通りまで広範囲に広がっております。また、駅に近い方や目黒区の方も利用者が少なくないうちがございまして、駅周辺にまとまった場所を確保することは大変厳しい状況ではありますが、駅に近い方に自転車利用の自粛を呼びかけると共に目黒区・地元とも協力し、引き続き民間駐車場の誘導や既存施設の有効活用等整備に向けて検討を進めて参ります。

この後に、風間ゆたかは再質問を行いました。今回は紙面の都合上、割愛させていただきます。8月中旬以降、区議会のホームページ上で会議録が確認できるようになりました。また、質問と答弁の様子はホームページ上からVTRでも確認できますので、こちらも是非ご覧下さい。

<http://www.city.setagaya.tokyo.jp/kugikai/>